

甲南女子大学に出没するイノシシの食性

猪 俣 伸 道

Eating Habits of Wild Bore (*Sus scrofa* L.) Visiting Frequently the Campus of Konan Women's University

INOMATA Nobumichi

Abstract : Eating habits of wild bore (*Sus scrofa* L.) visiting frequently Konan Women's University were examined. All fruits were eaten except Chinese quince (*Choenomeles sinensis*), Japanese quince (*Choenomeles speciosa*) and lemon (*Citrus limon*). The whole part of maize (*Zea mays*) was eaten except husk. The whole part of pineapple (*Ananas comosus*) was also eaten. Whole part of balsam pear (*Momordica charantia*) was eaten except sacrocarp. Young soybean (*Glycine max*) with capsule, Okura (*Abelmosches esculentus*) and Spanish paprika (*Capsicum annum*) among fruit vegetables were not eaten. All acorns were eaten with the shell peeled off. All root crops were eaten except burdock (*Arctium lappa*). All leaf vegetables were not eaten except bamboo shoot (*Sinoarundinaria pubescens*) and spinach (*Spinacea oleracea*). All mushrooms examined were not eaten, and cicada was eaten.

要旨：イノシシは雑食性と言われるが、雑食性の中で何をどのように食べるのかを調査した。人が食べる果物は何でも食べたがレモンは食べなかった。熱帯産の果物も食べた。種子の大きいものは種子を食べたり残したりした。莢付きのエダマメ、オクラとピーマンは食べなかった。ドングリの類は大きさに関係なく皆皮をむいて食べた。根菜類はゴボウを除いてすべて食べたが、ダイコンは時々残した。葉菜類はタケノコとホウレンソウは食べたが、他の物はどれも食べなかった。キノコ類はどれも全く食べなかった。セミの類は皆食べた。

は じ め に

大学の構内を歩くとイノシシの糞をよく目にする。また、時折、大学の池の周辺を敷き詰めた芝生、旧1号館と2号館の間や3号館と9号館の間の地面が掘り返されているのを目撃してきた。これらはイノシシが芝生を掘り返して土の中にいるミミズ等の小動物を探して食べているからだ(写真4)。筆者も大学構内で比較的大きなウリ坊に1-2度あったことがあるし、小雨の降る大学の前の坂を上から餌を探しに降りてきた大型のイノシシとすれ違ったこともあった。また、クラブ活動で遅くなって帰る学生が大学構内でイノシシに遭ったという話しもしばしば聞くこともあった。

神戸市はイノシシに関する苦情や要望等が200件以上も寄せられたためイノシシ問題検討会を開き、平成13(2001)年12月にイノシシに関する提言書をまとめた(神戸市, 2001)。それによると、主な被害は住宅敷地などへの侵入による経済的被害、イノシシが怖いという心理的被害、川に落ちたイノシシの保護要請、人身被害、ゴミステーションを荒らすや住環境被害等となっている。そこで神戸市ではイノシシを神戸市から排除するのではなく、イノシシと神戸市民が共存するという立場をとっていくのはどうすれば良いかを提言している。その方法として人間社会とイノシシの生存域のすみわけをはっきりさせることが重要である。それにはイノシシに餌を与えない、ゴミを放置しない等を主としたものであった。この条例は餌づけ行

為が昭和40(1965)年代の終りから認められ、被害や苦情が餌づけの行われている周辺に集中しているので餌付けが被害を生む最大の要因と考えられてきて今回の提言となった。

イノシシは偶蹄類イノシシ科に属し、ヨーロッパからインド、中国、朝鮮、日本まで分布し、日本では本州、四国、九州の山地に住むが南部に多い。雑食性で、コケ、キノコ、木の根、芽、カシの実、カニ、カエル、ヘビなどを主に食べ、ときどき人里に現れて米、芋などを食い荒らすと言われている(下中邦彦編, 1972)。

神戸市の今回の提言をみると、人間が如何にイノシシと関わっていくかと云う所に問題の解決の糸口を見つけているが、イノシシについての調査、特に食性についてはほとんど述べられていない。また、百科事典等を見ても食性については雑食性で、コケ、キノコ、木の根等を主に食べると記述があるが、雑食性に対する吟味はどの百科事典についても記述されていない(下中邦彦; 1972, 1984, 1988, 相賀徹夫; 1985)。

ここでは、甲南女子大学内に出没するイノシシが何をどのように食べるのかを、特に雑食性と言いで云わ

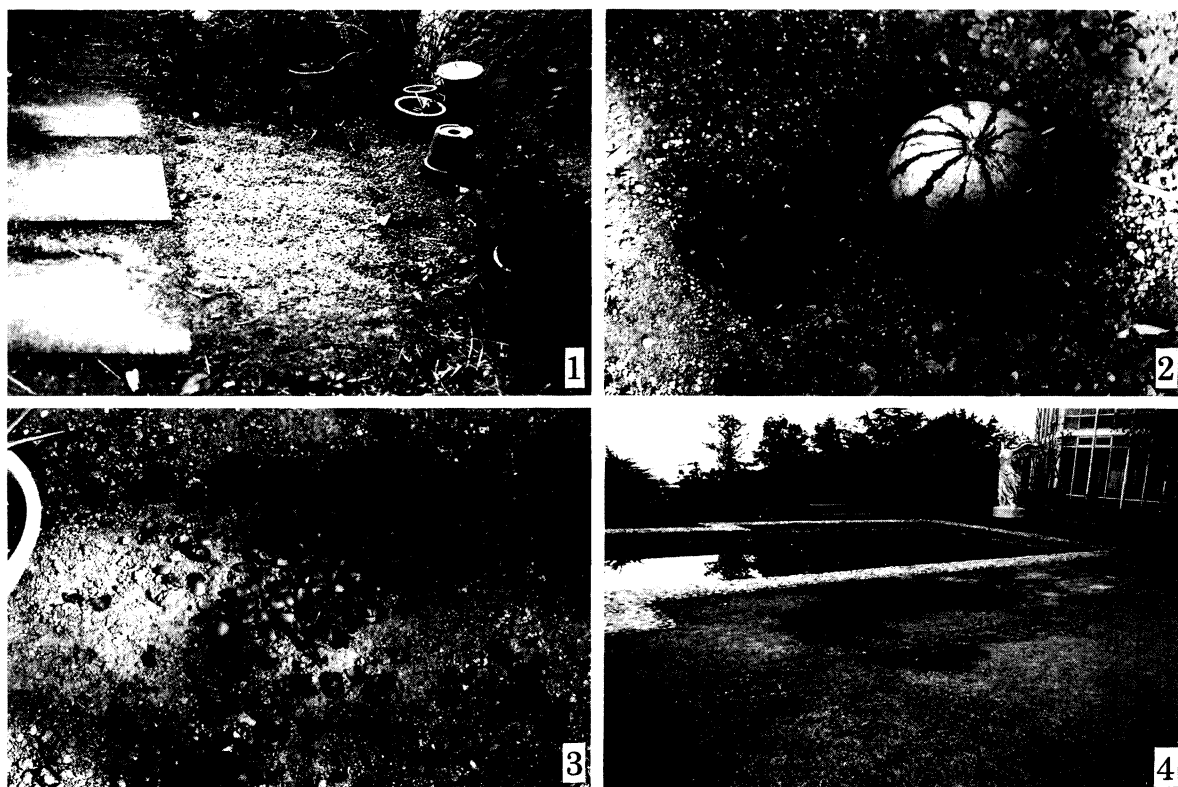
れるものが具体的にどうなのかを調査した。

調査場所と方法

調査は甲南女子大学2号館西端の敷石のある通路の脇で行った。方法は果物類、果菜類、ドングリ類、根菜類、葉菜類やキノコ類等の調べるものを置き、直径18cmの植木鉢をかぶせて、その前面は土を軟らかくして水を撒き、歩くと足跡が付くようにした(写真1)。ドングリ類は1度に100~200g与えた。毎日、朝に仕込んで次の日の朝に調べた。食べ残したり散らかしたりしたものは片付けて写真1のようにした。調査に用いた材料のうちスイカ、モモとボケの実以外すべて市場で求めたもので、キノコは数房に分けて与えた。セミは死んだセミを大学内で集めた。

結果と考察

表1はイノシシの果物類、果菜類とドングリ類についての食性調査の結果を示した。小型の種子を持つナシ、リンゴ類の果物は種子ごと食べていたが、少し大



- 1: 2号館西端の観察場所に食性調査をする物を置いて、その上から直径18cmの植木鉢を被せた。その前は軟らかく耕して水を打ち、足跡が付きやすいようにした。
- 2: スイカとクヌギのどんぐりを置いたもので、クヌギのドングリは写真1のように鉢をかぶせた。
- 3: イノシシがクヌギのドングリを食べた跡で、外側の殻だけが残った。
- 4: イノシシが池の端の芝生を掘り返した跡。

型のカキ、ビワ、プラム、モモ等では種子を食べたり残したりした。カキは種子の回りにゼリー状のものが付いているので食べたり残したりしたと思った。ビワの種子カキのそれより大型で丸いが、表面がすべすべしているので食べたと思った。プラムやモモの種子の表面はでこぼこなので、食べたり残したりという結果になった。アボガドの種子は大きく扁平なのでどうなるかと思ったが齧っただけで食べなかった。カンキツ類のネーブルは用心しながら食べたがレモンは食べなかった。

熱帯産の果実はいずれも食べた。調査したイノシシは大学の裏山に住んでいて、熱帯の果実を食べる経験は無いと思われたが、いずれも食べたのは、匂いを嗅いだとき、或いはちょっと齧ったときに甘みを感じると食べられるという思いに繋がったと考えた。パイナップルは外側も内部の芯も全部食べた。ニガウリは苦い果肉は残し種子のあるところだけ食べた。

人が通常果物として食べないカリンやボケの実を食べなかった。

果菜類は与えた物はほとんど食べたが、オクラとピーマンは食べなかった。スイカはクヌギのドングリと同時に与えたが、跡形も無く食べた(写真2)。トウモロコシは実と同時に芯の部分も食べ、皮だけを残した。エダマメは辺りに散らかしていたが食べていなかった。これは莢に小さな毛が蜜に生えているので食べたいが食べられなかったと思った。

ドングリ類は大型のもの(アベマキ、クヌギ等)は勿論、小型のカシの仲間(アカガシ、アラカシ、イチイガシ等)のドングリも全部皮をむいて食べた(写真3)。しかし、クヌギのドングリで完熟したものと未熟なものとを混ぜて与えたら完熟したものは食べたが、未熟なものは全部残した。また、保存してあって時間がたったドングリは食べないこともあった。

表2は根菜類についての調査結果を示した。ゴボウ以外は全部食べた。バナナには2種類あって表2のバナナは熟を加えて食べるバナナであったが食べた。レンコンはハスの地下茎であるので山に住むイノシシにとっては始めてのものと思ったがみな食べた。

表3は葉菜類についての調査結果を示した。表3に示す通りタケノコとホウレンソウ以外は全く食べなかった。タケノコは輪切りにして与えたので皮を残すかどうか分からなかった。NHKのテレビ放映によると(2004-4-21, 総合)イノシシはタケノコを食べるがえぐいものは食べない。その見極めは確かだと報映していた。本調査で与えたタケノコはえぐいもので無か

ったのだろう。

表4はキノコ類とセミ類についての調査結果を示した。キノコ類はいずれも食べなかった。動物事典等によるとキノコは食べると記載されているが(下中邦彦編, 1984; 下中弘編, 1988), 今回の調査ではいずれのキノコ類も食べなかった。これは大学内に出没しているイノシシに限ったことなのか、或いはキノコ類には有毒のものも有るので食べる習性を持たないのかと考えた。

セミ類については2種類調べたがイノシシはいずれも食べた。セミを大学内で集めたときにセミの抜け殻をみつけたので与えてみたが食べなかった。トンボも1~2匹与えたがこれは食べた。

毎回食べ跡の足跡を調べているが、2月はじめから3月はじめにかけて大きな足跡の他に小さい足跡が時折みられたので、子連れで来ていると考えた。その大きさは親の足跡は縦7センチ横6センチであったが、小さいものは縦4センチと横3センチのものであった。そして8月中から11月中まで大きい足跡に混じって小さいものが見られた。相賀(1985)によるとイノシシの繁殖期は神戸辺りでは年1回で、交尾期は11月から1月にかけてみられる。また、南の西表島では年2回の繁殖期がみられるとある。今回の観察で、小さい足跡は2月と8月の2回みられたが、同じ年の出来事ではなかった。神戸辺りでは、年2回の繁殖期があるときもあるのか。或いは、春に生まれた子を8月から11月あたりまで連れていたのかもしれないと思った。相賀(1985)によるとニホンイノシシは基本的に単独生活者であるが、ときに母子または兄弟で、交尾期には雌雄の数頭で行動することもある。大学内に出没するイノシシは何頭か分からなかったが、足跡の数から考えると僅かのイノシシが出没していると考えられた。

学生からの報告では、学内では10月末に子犬くらいの大きさのイノシシを2頭みた。また、11月初めに植えこみに子豚くらいのイノシシが2匹いたが、ヒトが近付いても逃げなかった等の報告を聞いている。学外では岡本駅近くでイノシシの親子が散歩していた。かなり大きいイノシシを岡本周辺でゴミを荒らしているところをみて、イノシシの住みかかヒトが奪っているのかと思った。甲南大学へ行く途中2頭のイノシシを見た。また、2頭のイノシシが川で泳いでいて驚いた。また、冷蔵庫を開けて牛乳を飲んだ、シュクリームを食べたという報告もあった。また、新神戸駅周辺にはイノシシがたくさんいて、餌を与えている

人もいたというし、ドックフードを与えているのを目撃した学生もいた。また、イノシシにトマトやキュウリを食べられたという報告もあった。

神戸市の人口は2006年1月1日現在152万6788名

である(神戸市統計課, 2006)。150万以上の人口を持つ大都市でイノシシが出没するのは、日本中捜しても、また世界的にみても類のない現象に違いない。類のないのでその対策に付いても独自の方法を編み出さ

表1 イノシシ (*Sus scrofa* L.) の果物類、果菜類とドングリ類についての食性調査

和名	学名	回数	食または不食	参 考
アボガド	<i>Persea americana</i>	1	食	実は少し残し、種子は残した
アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	多数	食	皮は残した
イチジク	<i>Ficus carica</i>	3	食	
エダマメ	<i>Glycine max</i>	1	不食	さや付きで与えた
オクラ	<i>Abelmoschus esculentus</i>	3	不食	
カキ(甘柿)	<i>Diospyros kaki</i>	4	食	へたは残し、種子は残したり、残さなかったりした
カボチャ	<i>Cucurbita pepo</i>	多数	食	
カリン	<i>Choenomeles sinensis</i>	3	不食	齧った跡が4箇所あった
キーウイ	<i>Actinidia chinensis</i>	3	食	
キュウリ	<i>Cucumis sativus</i>	2	食	
ギンナン	<i>Ginkgo biloba</i>	5	不食	ゆがいて、皮をむくと食べた
ク リ	<i>Castanea crenata</i>	6	食	穂を取って与えたら、皮は残した
グレープフルーツ	<i>Citrus x paradisi</i>	2	食	齧って、次回に皮は残した
クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	多数	食	皮は残した、未熟な種子も残した
コナラ	<i>Quercus serrata</i>	多数	食	皮は残した
サクランボ	<i>Prunus yedoensis</i>	3	食	アメリカンチェリー(1回5個)
ザクロ	<i>Punica granatum</i>	3	不食	
シラカシ*	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	多数	食	皮は残した
シロウリ	<i>Cucumis melo var. conomon</i>	1	食	
スイカ	<i>Citrulus lanatus</i>	1	食	
トウモロコシ	<i>Zea mays</i>	3	食	外皮は残した
トマト	<i>Lycopersicon esculentum</i>	1	食	
ナシ	<i>Pyrus pyrifolia var. culta</i>	3	食	
ナス	<i>Solanum melongena</i>	3	食	齧っただけのときもあった
ニガウリ	<i>Momordica charantia</i>	4	食	果肉以外を食べた
ネーブル	<i>Citrus sinensis var. brasiliensis</i>	1	食	2回齧って3回目に食べた
パイナップル	<i>Ananas comosus</i>	1	食	丸ごと全部食べた
バナナ	<i>Musa sp. (Table banana)</i>	4	食	皮は残す時もあった
ピーマン	<i>Capsicum annuum</i>	4	不食	緑色と赤色の両方を用いた
ビ ワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	4	食	種子は無かった
プラム	<i>Prunus domestica</i>	13	食	種子は残したり、無かったりした
ボ ケ	<i>Choenomeles speciosa</i>	3	不食	実を与えた
ミズナラ	<i>Quercus mongolica var. grosseserrata</i>	多数	食	皮は残した、未熟な種子も残した
ミカン	<i>Citrus unshiu</i>	3	食	残すときもある
ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	3	食	果実を多数与えた
モ モ	<i>Prunus persica</i>	10	食	種子は残したり、残さなかったりした
リンゴ	<i>Malus domestica</i>	3	食	
レモン	<i>Citrus limon</i>	2	不食	

*: シラカシの他にカシの仲間のアカガシ, アラカシ, イチイガシ, ウラジロガシ等のドングリを含む。(アイウエオ順)

表2 イノシシ (*Sus scrofa* L.) の根菜類についての食性調査

和名	学名	回数	食または不食	参 考
ゴボウ	<i>Arctium lappa</i>	3	不食	
サツマイモ	<i>Ipomea batatas</i>	多数	食	
サトイモ	<i>Colocasia esculenta</i>	多数	食	
ジャガイモ	<i>Solanum tuberosum</i>	多数	食	
ダイコン	<i>Raphanus sativus var. hortensis</i>	2	食	残す時もあった
ナガイモ	<i>Dioscorea batatas</i>	2	食	
ニンジン	<i>Daucus carota var. sativus</i>	4	食	
バナナ	<i>Musa sp. (Cooking type)</i>	3	食	皮は少し残した
ラッカセイ	<i>Arachis hypogaea</i>	2	食	1回20粒程、殻は残した
レンコン	<i>Nelumbo nucifera</i>	4	食	

(アイウエオ順)

表3 イノシシ (*Sus scrofa* L.) の葉菜類についての食性調査

和名	学名	回数	食または 不食	参 考
アスパラガス	<i>Asparagus officinalis</i>	2	不食	
アロエ	<i>Aloe arborescens</i>	常時	不食	鉢植えとして置いてあった
イタリアンブロッコリ	<i>Brassica oleracea var. italica</i>	2	不食	
キクナ	<i>Chrysanthemum coronarium</i>	2	不食	芯のところに食べた跡があった
キャベツ	<i>Brassica oleracea var. capitata</i>	4	不食	
コマツナ	<i>Brassica rapa ssp. oleifera</i>	3	不食	
シロナ	<i>Brassica rapa ssp. pekinensis</i>	1	不食	
タケノコ	<i>Sinoarundinaria pubescens</i>	1	食	輪切りにして与えた
タマネギ	<i>Allium cepa</i>	1	不食	
チンゲンサイ	<i>Brassica rapa ssp. chinensis</i>	1	不食	
ニラ	<i>Allium tuberosum</i>	1	不食	
ハクサイ	<i>Brassica rapa ssp. pekinensis</i>	3	不食	
ハウレンソウ	<i>Spinacea oleracea</i>	1	食	
ネギ	<i>Allium fistulosum</i>	2	不食	
ミズナ	<i>Brassica rapa ssp. nipposinica</i>	2	不食	
ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>	2	不食	
レタス	<i>Lactuca sativa</i>	1	不食	

(アイウエオ順)

表4 イノシシ (*Sus scrofa* L.) のキノコ類とセミ類についての食性調査

和名	学名	回数	食または 不食	参 考
エノキタケ	<i>Flammulina velutipes</i>	3	不食	1回に1パック
エリンギ	<i>Hymenomyces</i>	2	不食	1回に1個
シイタケ	<i>Lentinula edodes</i>	1	不食	1回に3房
シメジ	<i>Lyophyllum shimeji</i>	1	不食	1回に2房
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	10	食	1回に3~5匹
クマゼミ	<i>Cryptotympana japonensis</i>	8	食	1回に3~5匹

(アイウエオ順)

ないといけない。しかし、対策がうまくいき神戸市と野生大型哺乳類の共存が可能になれば、世界的に誇ることのできる共存共栄の事柄となるに違いない。

謝辞

学生達からの情報も得られた。情報を提供してくれた学生達に感謝します。

引用文献

相賀徹夫編著, 1985。日本大百科全書 2: 552-554, 小学

館。

神戸市産業振興局農政計画, 2001。イノシシに関する提言書。1-6, 神戸市。

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/27/nousei/inoshishi/teigen.htm>。

神戸市統計課, 2006。神戸市の人口, 2006-1-1 現在, 152万 6788 名。神戸市統計局。

下中邦彦編, 1972。世界大百科事典 2: 410, 平凡社。

下中邦彦編, 1984。大百科事典 1: 1156-1157, 平凡社。

下中弘編, 1988。世界大百科事典 2: 502-503, 平凡社。